

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070701711		
法人名	株式会社 深田商店		
事業所名	八幡西ケアセンター和が家		
所在地	福岡県北九州市八幡西区御開3-9-53		
自己評価作成日	令和1年9月25日	評価結果確定日	令和1年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16 TEL:092-589-5680 HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和1年10月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

運営理念を元に、ユニットごとに基本方針を掲げ、安心・安楽・安全に暮らすことができる生活環境づくりと入居者への介護サービス向上に努めている。地域との連携においては、近隣事業所との合同介護講座や事業所独自での介護技術講座を開催し、事業所で蓄積した介護の知識や経験を地域に還元し、地域包括ケア構築に寄与している。近隣に大規模な公園や街路樹がある恵まれた環境に立地していることから、日常的に散歩や買い物などの外出を行い、季節感を味わいながら生活することができる。また、入居者の誕生日においては、思い出のある懐かしい場所や好物を食べたり、動物に接することが出来る場所など要望に合わせた個別の外出を行い、入居者の生活の質の向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

H15.4開設にされた「八幡西ケアセンター和が家」はデイサービス、居宅と併設された2ユニット型グループホームである。市内には小倉南にも1か所グループホームがある。閑静な住宅街で、車通りも少なく、近くには公園もあり桜並木や銀杏などで季節の移り変わりも感じられる。開設当初から地域との関わりが深く行事への参加も多い。近年では近隣の他事業所と共同して、地域向けに介護技術の研修等も開催しており好評を得ている。事業所内では利用者が中にこもらないよう、希望を聞いてドライブで買い物に行ったり、食べたい物を食べに行ったりとそれぞれのわがままにも応えられるようなケアを提供している。今年は社員の定着とスキルアップを目指して組織改革にも取り組んでおり、外部評価の改善の取組にも積極的で今後も発展が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己 外部	項 目	自己評価(ゆり)	自己評価(ももユニット)	外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を掲げ、GH内の玄関、フロアに掲示し、毎朝のミーティングや部署カンファレンス時に唱和することで全職員に意識付けを行っている。運営理念については、見直しを検討している。	運営理念を掲げ、GH内の玄関、フロアに掲示し、毎朝のミーティングや部署カンファレンス時に唱和することで全職員に意識付けを行っている。運営理念については、見直しを検討している。	法人として共通の和が家運営理念と、各ユニットのごとの基本方針が開設当初からある。基本方針については毎年振り返り、見直しも行い、年度によって利用者の入れ替わりがあった際などは変更することもある。掲示やスタッフ個人の持物などにも貼り付けることで、日頃から身近に触れてもらい共有、浸透が図られ、職員も馴染みを持ってサービスへの実践に繋げている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市民センター認知症講座開催に対し、事前準備から職員も参加し、地域住民と共に開催に向けて協力し、当グループホームを会場として提供した。	市民センター認知症講座開催に対し、事前準備から職員も参加し、地域住民と共に開催に向けて協力し、当グループホームを会場として提供した。	校区の4施設合同で、市民センター主催による事業所説明、介護講座を行うようになり、30名ほどが集まり盛況であった。独自企画としての介護技術講座も開き。回覧板で周知してこちらも好評だった。今後も2ヶ月ごとに開催予定である。地域の運動会、文化祭にも毎年利用者と共に参加しており、作品出品もしている。地域との関わりもあり、周辺への認知も進んできている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム独自に介護技術講座を開催し、地域住民に介護のノウハウを提供した。また、利用者と共に地域行事に参加し、地域の人々と共に過ごす時間を増やすことで、理解や支援方法を身近に感じて頂いている。	ホーム独自に介護技術講座を開催し、地域住民に介護のノウハウを提供した。また、利用者と共に地域行事に参加し、地域の人々と共に過ごす時間を増やすことで、理解や支援方法を身近に感じて頂いている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、ご家族・自治区会長・民生委員・近隣施設職員(知見者)、地域包括支援センター職員(北九州市職員)が参加し、活発な意見交換を行っている。身体拘束適正化についての検討も会議内で行われ、会議内容は、部署ミーティングで職員に伝達され、会議議事録は、閲覧できるようになっている。	運営推進会議には、ご家族・自治区会長・民生委員・近隣施設職員(知見者)、地域包括支援センター職員(北九州市職員)が参加し、活発な意見交換を行っている。身体拘束適正化についての検討も会議内で行われ、会議内容は、部署ミーティングで職員に伝達され、会議議事録は、閲覧できるようになっている。	家族が参加しやすいよう日曜開催にしており、家族には全員に案内し、5～7人が来られている。活動報告や、運営報告、看護師による医療報告のほか、参加者全員からも意見や情報をもらうようにしており、医師が参加されることもある。会議の中で家族同士の意見交換もあり、交流の場にもなっている。議事録は欠席者も含め全員に郵送で報告もしており共有を図っている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に、地域包括支援センター職員(北九州市職員)が参加しており、事業所の運営について、意見やアドバイスを出している。	運営推進会議に、地域包括支援センター職員(北九州市職員)が参加しており、事業所の運営について、意見やアドバイスを出している。	事業所の指定更新も何度か行っているが、その際には市とも連絡を取りながら、問題なく行えている。加算や介護保険についての市に電話で尋ねている。空室状況については毎月FAXで報告している。地域包括からは空室の問い合わせも受けており、入居につながったこともある。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の部署ミーティングで身体拘束について話し合い、現在のサービスにおいて、身体拘束に該当するものはないか、身体拘束が発生している場合は、廃止への取り組みを行っている。玄関の施錠が行動制限に該当するが、外部からの不審者の進入防止の安全性の観点から、継続している。	毎月の部署ミーティングで身体拘束について話し合い、現在のサービスにおいて、身体拘束に該当するものはないか、身体拘束が発生している場合は、継続の必要性があるかの確認を行っている。玄関の施錠が行動制限に該当するが、外部からの不審者の進入防止の安全性の観点から、継続している。	2018年の4月から、運営推進会議内に身体拘束廃止委員会を組織し、報告、話し合いを行うようにしている。原則拘束をしない方針で、鈴やセンサーマットなどで見守り対応している。施設内の往来は自由だが、1F正面玄関は施錠している。帰宅願望のある方も施設内での移動などで落ち着いてもらっている。研修は新人のオリエンテーションのほか、毎月のカンファレンスでマニュアル読み合せなど勉強会をしている。

2019自己・外部評価表(八幡西和が家)

自己	外部	項 目	自己評価(ゆり)	自己評価(ももユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日の申し送りや部署ミーティング時に、現状の言葉遣い、接遇方法などサービスにおいて、該当することがないか確認を行い、防止に努めている。	毎日の申し送りや部署ミーティング時に、現状の言葉遣い、接遇方法などサービスにおいて、該当することがないか確認を行い、防止に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去の入居者で日常生活自立支援事業(金銭管理)の利用実績があることから、権利擁護に関する制度理解と活用を周知している。また、玄関横にパンフレットを置き、ご家族への周知を行い、活用できるように支援している。	過去の入居者で日常生活自立支援事業(金銭管理)の利用実績があることから、権利擁護に関する制度理解と活用を周知している。また、玄関横にパンフレットを置き、ご家族への周知を行い、活用できるように支援している。	以前は入居後に制度利用された事例もあったが、今は両制度とも利用されている方はいない。利用の可能性があるような方については契約時などに説明している。必要時には市の出先機関に相談して支援する体制もある。職員も制度についての一般的な知識は持たれている。	今後の利用にも備えて、定期的な内部研修や外部研修の参加がなされることに期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、変更時に、重要事項説明書を用いて、書面にて説明、確認を行い、理解・納得を図っている。	契約、変更時に、重要事項説明書を用いて、書面にて説明、確認を行い、理解・納得を図っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口や意見箱を設置し、意見や要望を述べやすい環境づくりを行っている。また、家族が面会時に職員へ話す場合もあり、申し送りで職員間で意見とその対応を共有し、運営に反映させている。	苦情相談窓口や意見箱を設置し、意見や要望を述べやすい環境づくりを行っている。また、家族が面会時に職員へ話す場合もあり、申し送りで職員間で意見とその対応を共有し、運営に反映させている。	面会には8割方の家族が毎月定期的に来られており、その際に意見や要望を聞くことが多い。家族会も敬老会の前に運営推進会議と同日で行い、家族同士で座談会的にざっくばらんな話をしてもらっている。家族からの意見もあり、入り口にスタッフ紹介のパネルを設置している。毎月利用者ごとに個別のお便りを担当職員が作成しており、写真付きで日頃の様子を報告している。	事業所の取組について、家族に十分に伝わっていないこともあるので、運営推進会議での報告をされてはどうだろうか。また、新入職員がいる際にはお便りなどで紹介するのもよいのではないかな。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の部署ミーティングや日々のミーティングに代表者や管理者が参加し、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。また、朝礼時及び業務日誌で代表者や管理者へ報告が行える仕組みを築いている。	毎月の部署ミーティングや日々のミーティングに代表者や管理者が参加し、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。また、朝礼時及び業務日誌で代表者や管理者へ報告が行える仕組みを築いている。	事業所全体のミーティングが毎月1回、同日にユニットに分かれて別個でも行う。原則パート職員も含め全員参加で話し合い、欠席者にも伝達されている。運営の話や、各ユニットの目標、反省点等を話し、必ず参加者全員が発言するようにしている。利用者のカンファレンスも計画更新時の前月に行い、状況の申し送りもつぎに行っている。行事企画や申し送りについても職員からの意見で改善につなげている。個別面談もあり別個の相談機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者との面談は随時設けられ、職員が直接、意見を述べる機会がある。また、介護福祉士や介護支援専門員資格試験の情報や対策を受験者へ提供しており、向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備が行っている。	代表者との面談は随時設けられ、職員が直接、意見を述べる機会がある。また、介護福祉士や介護支援専門員資格試験の情報や対策を受験者へ提供しており、向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備が行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用に当たっては、性別や年齢等の制限を設けず、幅広く行っている。採用後は、研修期間を設け、その個性や能力を把握することで、業務において、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の募集・採用に当たっては、性別や年齢等の制限を設けず、幅広く行っている。採用後は、研修期間を設け、その個性や能力を把握することで、業務において、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	男女比は2:8程度で、年齢層は20～60歳代までいるが、平均すると40歳代が多い。職員も能力や特技を生かし、飾りつけや行事の際のプレート、作品作りなどに取り組み、利用者への接し方でもお互いに刺激になっている。法人内での異動も希望やスキルアップを目的に柔軟になされ、情報交換にも役立っている。休憩時間や休憩場所の確保もされている。今年から組織編成にも取り組み、コミュニケーションがよく取られるようになり、意見も出され、勤務交代も円滑に出来るようになった。	

2019自己・外部評価表(八幡西和が家)

自己	外部	項 目	自己評価(ゆり)	自己評価(ももユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年1回、行政資料やDVDなどにより、人権教育を実施。啓発活動に取り組んでいる。	年1回、行政資料やDVDなどにより、人権教育を実施。啓発活動に取り組んでいる。	人権教育啓発推進センターが発行する冊子や、DVDを使い、職員に対してや利用者に対しての一般的な人権教育についてを毎年定期的に学ぶようにしている。DVDなどで分かりやすく学習機会を持っている。	県政出前講座や、市の人権団体の講師派遣などを使い、レク的に人権を学ぶ機会を設けても良いのではないだろうか。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	北九州市社会福祉研修所主催の外部研修や部署ミーティングにおける認知症ケア研修、介護実践研修などの内部研修によりトレーニングをすすめている。	北九州市社会福祉研修所主催の外部研修や部署ミーティングにおける認知症ケア研修、介護実践研修などの内部研修によりトレーニングをすすめている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市民センター組織の福祉部会に近隣の他事業所とともに参加し、連携して地域行事の担い手として活動している。その活動を通じて、職員間が交流を図り、情報交換・相互訪問等の活動を通じてサービスの質の向上を図っている。	市民センター組織の福祉部会に近隣の他事業所とともに参加し、連携して地域行事の担い手として活動している。その活動を通じて、職員間が交流を図り、情報交換・相互訪問等の活動を通じてサービスの質の向上を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご自宅や医療機関に訪問し、不安や要望などを傾聴し、入居後の暮らしについて説明を行っている。また、施設見学を行うことで、他利用者や生活の様子を見て本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に、ご自宅や医療機関に訪問し、不安や要望などを傾聴し、入居後の暮らしについて説明を行っている。また、施設見学を行うことで、他利用者や生活の様子を見て本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時にご家族に施設見学を行っていたいただき、介護サービス内容や行事の説明を行い、ご家族の不安や要望を傾聴しながら、コミュニケーションをとっている。	相談時にご家族に施設見学を行っていたいただき、介護サービス内容や行事の説明を行い、ご家族の不安や要望を傾聴しながら、コミュニケーションをとっている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時に、ご本人様やご家族の不安や要望に対応できるサービスが他にないか考え、必要に応じて併設の居宅介護支援事業所のケアマネージャーと連携をとって対応している。	入居相談時に、ご本人様やご家族の不安や要望に対応できるサービスが他にないか考え、必要に応じて併設の居宅介護支援事業所のケアマネージャーと連携をとって対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の残存能力を活用しながら、洗濯・掃除・配膳などの生活活動をともにを行い、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。生活活動に参加することで生活リズムも整っている。	ご本人様の残存能力を活用しながら、洗濯・掃除・配膳などの生活活動をともにを行い、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。生活活動に参加することで生活リズムも整っている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の日常生活の様子を面会時、電話連絡時、ご請求書などの書類配布時のお手紙にて、報告し、本人と家族の絆を大切にしている。また、家族が来所しやすいように、季節行事や誕生日会などを企画している。	ご本人様の日常生活の様子を面会時、電話連絡時、ご請求書などの書類配布時のお手紙にて、報告し、本人と家族の絆を大切にしている。また、家族が来所しやすいように、季節行事や誕生日会などを企画している。		

2019自己・外部評価表(八幡西和が家)

自己	外部	項 目	自己評価(ゆり)	自己評価(ももユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出・外泊がスムーズに行われるように支援し、今までのなじみの人や場所との関係が途切れないようにしている。	面会や外出・外泊がスムーズに行われるように支援し、今までのなじみの人や場所との関係が途切れないようにしている。	家族の面会機会は多く、それ以外にも前の職場の知人が来たり、友人が連絡してくるようなこともある。以前犬を飼っていた利用者の要望でペットショップや触れ合える場所にお連れして非常に喜ばれた。習い事の三味線の関係者に来てもらったこともある。家族に連れ出してもらって一時帰宅や外泊、旅行に行くような方もいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	午前・午後に利用者同士がかかわりを持てるレクリエーションや体操をフロアで実施し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	午前・午後に利用者同士がかかわりを持てるレクリエーションや体操をフロアで実施し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、退所後も医療機関や入所施設との連携を必要に応じて行い、本人・家族の経過をフォローし、サービスの連続性が維持できるように、相談や支援に努めている。	サービス利用(契約)が終了しても、退所後も医療機関や入所施設との連携を必要に応じて行い、本人・家族の経過をフォローし、サービスの連続性が維持できるように、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に本人、ご家族より生活歴や今までの生い立ちを聞き取り、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	入所時に本人、ご家族より生活歴や今までの生い立ちを聞き取り、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	入居時には家族から家系図や経歴、認知症発生の経緯や症状などを記入してもらい情報収集している。以前はセンター方式も活用していた。入居してから1週間はADL状況シートを記録し、状態の把握に繋げている。主に各ユニットの計画作成担当者が受け持っている。誕生日の際にはそれぞれのやりたい事をやらせようという企画を催し、食べたい物を食べる、外出するなどを実施している。意思疎通の難しい方とは家族からの聞き取りや、普段の過ごし方をカンファレンスなどで職員から聞き取るなどで意思をくみ取っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご本人・ご家族、サービス提供事業所・担当ケアマネージャーから、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等を聞き取り、把握に努めている。	入所時にご本人・ご家族、サービス提供事業所・担当ケアマネージャーから、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等を聞き取り、把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のミーティングで、ケアマネージャー、看護、介護職など多職種から一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努め、利用者ごとの個別対応表を作成、更新を行っている。	毎月のミーティングで、ケアマネージャー、看護、介護職など多職種から一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努め、利用者ごとの個別対応表を作成、更新を行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時に、担当者会議を開催し、主治医、本人、家族、ケアマネージャー、介護、看護職員など関係者から情報収集を行い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプラン作成時に、担当者会議を開催し、主治医、本人、家族、ケアマネージャー、介護、看護職員など関係者から情報収集を行い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	各計画作成担当者がプラン作成している。居室担当も定め、毎月のモニタリング、お便り作成などを行う。プランの見直しは半年で行い、主に職員で担当者会議を開催する。今年からは主治医や看護師の職員からも意見照会をもらうようにし、議事録にも反映させている。家族からは面会時などに意見を聞き、計画書にはあとから承認をもらっている。	時には介護更新時などの機会に、家族にも参加してもらって担当者会議を開催することも検討されてはどうか。

2019自己・外部評価表(八幡西和が家)

自己	外部	項 目	自己評価(ゆり)	自己評価(ももユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしは生活日誌、健康状態や身体状況については健康日誌、認知面・医療面で継続して経過確認が必要な場合は経過記録など個別記録を作成し、申し送りや部署ミーティングで職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の暮らしは生活日誌、健康状態や身体状況については健康日誌、認知面・医療面で継続して経過確認が必要な場合は経過記録など個別記録を作成し、申し送りや部署ミーティングで職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設している居宅介護支援事業所や通所介護事業所との連携により、福祉用具の利用や通所介護での行事参加など、本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	併設している居宅介護支援事業所や通所介護事業所との連携により、福祉用具の利用や通所介護での行事参加など、本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市民センターや民生委員、自治区会より地域資源の情報をいただき、運動会や文化祭などの地域行事の参加や地域の福祉ボランティア(傾聴)の協力を頂き、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	市民センターや民生委員、自治区会より地域資源の情報をいただき、運動会や文化祭などの地域行事の参加や地域の福祉ボランティア(傾聴)の協力を頂き、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、治療箇所にあわせて、本人及び家族等の希望するかかりつけ医と事業所が連携し、医師からの指示に従いながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診は、治療箇所にあわせて、本人及び家族等の希望するかかりつけ医と事業所が連携し、医師からの指示に従いながら、適切な医療を受けられるように支援している。	自由にかかりつけ医を選べるが、往診が出来るという事で全員が事業所の提携医がかかりつけになっている。他科受診の際も専ら事業所が支援し、家族に通院介助してもらう事もある。正看護師も在籍しており、医師や家族との医療情報のやり取りや共有について担い、何かあれば随時電話でも報告している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師が配置されており、個々の利用者の健康面や精神面の変化を伝えて相談しやすい環境にあるため、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職場内に看護師が配置されており、個々の利用者の健康面や精神面の変化を伝えて相談しやすい環境にあるため、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近隣救急医療機関と当事業所主治医との連携が築けており、入退院時には、救急医療機関医師より病状や治療方法などの説明が家族とともに、主治医へも行われる。また、入院中においても、退院に向けて、病院関係者との間で利用者情報の共有が行われる。	近隣救急医療機関と当事業所主治医との連携が築けており、入退院時には、救急医療機関医師より病状や治療方法などの説明が家族とともに、主治医へも行われる。また、入院中においても、退院に向けて、病院関係者との間で利用者情報の共有が行われる。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、当事業所における看取りの方針を説明し、ご本人、ご家族に対し、早い段階から話し合いを行っている。また、看取りが必要になった場合においては、主治医や本人・家族、看護師や管理者との間で再度、看取り時の対応方法を確認している。また、近隣事業所において発生している看取りについての取り組み方法を学び、地域の関係者とともに、支援に取り組んでいる。	契約時に、当事業所における看取りの方針を説明し、ご本人、ご家族に対し、早い段階から話し合いを行っている。また、看取りが必要になった場合においては、主治医や本人・家族、看護師や管理者との間で再度、看取り時の対応方法を確認している。また、近隣事業所において発生している看取りについての取り組み方法を学び、地域の関係者とともに、支援に取り組んでいる。	数年前から看取り対応も行っており、本人家族の希望があり、重度の医療対応が必要でない限りは最期まで看取る方針である。現時点でも何名かの看取り支援に入っており、看取りプランも作成している。提携医も24時間体制があり、必要時には訪問看護も利用している。近隣特養と看取りについての情報交換を行い、食事や処置などについて意見をもらった。ターミナルに入った方がいる時はその方の対応についてこまめにカンファレンスを開き看護師などによりフォローしている。	新しい知見を得るためにも、外部研修なども機会があれば参加を検討されても良いのではないだろうか。

2019自己・外部評価表(八幡西和が家)

自己	外部	項 目	自己評価(ゆり)	自己評価(ももユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の避難訓練時にAEDを用いた急変時や事故時の応急手当や初期対応訓練を実施している。また、部署会議の中で随時看護職による緊急対応訓練や感染症予防対策など時期に合わせた指導が行われている。	年2回の避難訓練時にAEDを用いた急変時や事故時の応急手当や初期対応訓練を実施している。また、部署会議の中で随時看護職による緊急対応訓練や感染症予防対策など時期に合わせた指導が行われている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の避難場所を災害時ハザードマップにて確認している。また、年2回の避難訓練のうち、1回は夜間を想定したものになっている。地域の消防署との連携や自治区会・民生委員との災害時の協定により、地域との協力体制を築いている。	地域の避難場所を災害時ハザードマップにて確認している。また、年2回の避難訓練のうち、1回は夜間を想定したものになっている。地域の消防署との連携や自治区会・民生委員との災害時の協定により、地域との協力体制を築いている。	年2回の内1回は、基本的に消防署にも立ち会ってもらっている。日中想定の際は併設デイと合同で行う。地域の自地区会とのH23から防災協定を結んでおり、有事の際には相互協力するような体制をとっている。訓練時には地域の方にも声掛けし、参加してもらう事もある。備蓄物として乾麺や米、水、コンロなどを3日分程度備えている。	防災協定が取り交わされているが、担当が変わっている可能性もあり、一度内容も含め見直されても良いのではないだろうか。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時研修で接遇において一人ひとりの尊重とプライバシーの確保を行うことを指導し、毎月の部署ミーティングにおいて、接遇方法において一人ひとりの尊重とプライバシーの確保が行えているか確認している。	入社時研修で接遇において一人ひとりの尊重とプライバシーの確保を行うことを指導し、毎月の部署ミーティングにおいて、接遇方法において一人ひとりの尊重とプライバシーの確保が行えているか確認している。	毎月のミーティング時にテーマを変えて、年に1回は接遇やプライバシーの確保についても話し合っている。利用者に合わせた呼びかけについても話し合い、親しみをもってもらうことと、目上の方に対しての接し方の線引きが出来るように気を付けている。写真利用については所内だけに留め外部に発信することはない。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において、利用者への声かけや話題提供を行い、本人が思いや希望を表現しやすい環境づくりを行い、自己決定できるように働きかけている。お誕生日会は、本人の希望を聞き、個別でその希望をかなえている。	日常生活において、利用者への声かけや話題提供を行い、本人が思いや希望を表現しやすい環境づくりを行い、自己決定できるように働きかけている。誕生日会は、本人の希望を聞き、個別でその希望をかなえる機会としている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	4交代のシフト業務において、職員同士の申し送りが朝・夕と行われるため、その際に、利用者状況を申し送り、個別対応表を活用し、利用者一人ひとりの状況把握に努めている。	4交代のシフト業務において、職員同士の申し送りが朝・夕と行われるため、その際に、利用者状況を申し送り、個別対応表を活用し、利用者一人ひとりの状況把握に努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望や趣味を考慮して、一緒に考え、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の希望や趣味を考慮して、一緒に考え、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューをお伝えする際に、季節感が味わえるような話題提供を行い、食事が楽しみになるようにしている。食事前には、口腔体操を取り入れ、食事への意識付けや誤嚥予防へ役立てている。	食事メニューをお伝えする際に、季節感が味わえるような話題提供を行い、食事が楽しみになるようにしている。食事前には、口腔体操を取り入れ、食事への意識付けや誤嚥予防へ役立てている。	平日は調理済み食材の配食があり、炊飯のみ事業所で行う。日曜や行事の際は買い物から事業所で調理することもあり、レク的に利用者に調理から手伝ってもらう事もある。手伝えることはしてもらい、配下膳や、皿洗いなどされる方もいる。食べたい物を聞いたり感想なども聞いて反映もさせている。レクの際には職員も一緒に食卓を囲んでいる。外食は個別やグループでも行い、年に数回実施している。	

2019自己・外部評価表(八幡西和が家)

自己	外部	項 目	自己評価(ゆり)	自己評価(ももユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を毎日確認し、ケアマネージャーや看護職と話し合い、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分量を毎日確認し、ケアマネージャーや看護職と話し合い、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、利用者一人一人の残存機能や口腔状態に合わせた支援を行い、口腔ケアを実施している。	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、利用者一人一人の残存機能や口腔状態に合わせた支援を行い、口腔ケアを実施している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、本人の排泄パターンを把握し、パターンに合わせた誘導を行い、プライバシーを考慮しながら、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表を作成し、本人の排泄パターンを把握し、パターンに合わせた誘導を行い、プライバシーを考慮しながら、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	ユニット共通の記録用紙で、利用者ごとに1枚で1週間分の排泄状況を記録している。失禁がある方に対して、トイレ誘導の回数を増やしたり、腹部マッサージを職員から積極的に促して提案することで、失敗が改善する事例もあった。改善提案は朝の申し送りや朝礼などで情報を共有することで意見を出して話し合い、迅速な実行につなげている。排便の記録も便秘の期間について申し送り、個別の状態での処置を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や繊維質の多い食材、補助食品を使用した献立、腸内運動を促すマッサージにて、便秘予防、排泄支援を行っている。また、主治医との連携により漢方薬の利用も行っている。	水分補給や繊維質の多い食材、補助食品を使用した献立、腸内運動を促すマッサージにて、便秘予防、排泄支援を行っている。また、主治医との連携により漢方薬の利用も行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は、夜間は職員が1ユニット1名となるため、夜間以外で実施し、利用者1名に対して職員1名で対応し、体調や意志を考慮して、入浴時間を決めている。また重度利用者には機械浴やリフト浴にて安全に入浴できる体制を整えている。	入浴時間は、夜間は職員が1ユニット1名となるため、夜間以外で実施し、利用者1名に対して職員1名で対応し、体調や意志を考慮して、入浴時間を決めている。また重度利用者には機械浴やリフト浴にて安全に入浴できる体制を整えている。	両ユニットの造りは共通だが、片方には吊り下げ式のリフトがあり、シャワーキャリーから直接移乗が出来る。必要があればデイスービスの機械浴も利用可能である。概ね週3回午前から夕前位の時間帯で希望を聞いて入浴している。皮膚観察の状態などは看護師とも連携をとって処置につなげる。菖蒲や柚子など季節の行事浴をすることもある。風呂が楽しみな場になるように職員でも企画を話し合っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は一人ひとりの生活習慣に合わせてばらばらであるが、日中に活動量が増えるように、レクリエーションや体操の実施したり、夜間に安心して気持ちよく眠れるように悩みや不安を傾聴したりして、支援している。	就寝時間は一人ひとりの生活習慣に合わせてばらばらであるが、日中に活動量が増えるように、レクリエーションや体操の実施したり、夜間に安心して気持ちよく眠れるように悩みや不安を傾聴したりして、支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が処方された薬の内容を把握し、確実に服薬できるようにしている。また、週1回の主治医の往診後に、薬や治療方法の変更があれば、職員間で周知できるように、申し送り表や医療情報表を活用している。	職員全員が処方された薬の内容を把握し、確実に服薬できるようにしている。また、週1回の主治医の往診後に、薬や治療方法の変更があれば、職員間で周知できるように、申し送り表や医療情報表を活用している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活活動の中でできることを見極め、できることが継続できるように日々の役割として習慣化し、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、支援している。また、季節に合わせた行事を企画し、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活活動の中でできることを見極め、できることが継続できるように日々の役割として習慣化し、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、支援している。また、季節に合わせた行事を企画し、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。		

2019自己・外部評価表(八幡西和が家)

自己	外部	項 目	自己評価(ゆり)	自己評価(ももユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初もうでや花見など季節に合わせた外出支援を行っている。また、本人の希望に沿った外食、お祭りや運動会など地域行事への参加を家族の協力を得ながら実施している。	初もうでや花見など季節に合わせた外出支援を行っている。また、本人の希望に沿った外食、お祭りや運動会など地域行事への参加を家族の協力を得ながら実施している。	気候の良い時期には年に数回外出行事を企画し、初もうで、鯉のぼり見物、花見など近隣のスポットに事業所全体で訪問している。日常的には近隣の散歩で公園や並木道に行ったり、買物にショッピングモールなど少人数でドライブにも行っている。意欲低下や拒否の見られる方に対しては個別対応で連れ出すこともある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者一人ひとりの現金を事業所で管理し、ドライブや散歩など外出し、買い物が行える場合は、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者一人ひとりの現金を事業所で管理し、ドライブや散歩など外出し、買い物が行える場合は、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方にご家族がおられ、面会が頻繁には難しい場合は、本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	遠方にご家族がおられ、面会が頻繁には難しい場合は、本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁飾りを季節ごとに利用者とともに作成し、季節感のあるフロア作りを行っている。室温湿度計を確認しながら温度・湿度の調整、カーテンや照明により明るさを調節し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアの壁飾りを季節ごとに利用者とともに作成し、季節感のあるフロア作りを行っている。室温湿度計を確認しながら温度・湿度の調整、カーテンや照明により明るさを調節し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	2Fに各ユニットが事務室を中心に東西に分かれている。南側の掃き出し窓からの採光も良く、バルコニーも15畳〜ほどと大きく、日光浴も出来る。ビニル床は清掃も行き届いており、綺麗にワックスがけされている。トイレは3か所あり、片麻痺や車いすの方でも安全に使えるよう設計されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置や食卓の位置を利用者の歩行状態や精神面に合わせて変化させ、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファの配置や食卓の位置を利用者の歩行状態や精神面に合わせて変化させ、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、使い慣れたものや好みのものを持たができるように施設基準よりも広めになっている。入居時、家具・寝具・衣類を持ってきていただき、本人様と相談して居心地よく過ごせるような工夫をして配置している。	居室は、使い慣れたものや好みのものを持たができるように施設基準よりも広めになっている。入居時、家具・寝具・衣類を持ってきていただき、本人様と相談して居心地よく過ごせるような工夫をして配置している。	各居室の造りは共通で、電動介護ベッド、作り付けのクローゼット、棚にも使える机板も備えられている。十分な収納スペースがあるため、各部屋整理整頓が行き届いていた。周囲の環境も開けているため、腰高窓からの日光もよく差し込んでいる。転落防止のパネルカーベットや、自費レンタルのエアマットなども柔軟に対応している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室などの共用スペースには大きな表示をしたり、利用者居室前には、その方の写真を貼り、自室であることが認識できるようにするなど各生活空間がわかりやすいように表示し、自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや浴室などの共用スペースには大きな表示をしたり、利用者居室前には、その方の写真を貼り、自室であることが認識できるようにするなど各生活空間がわかりやすいように表示し、自立した生活が送れるように工夫している。		